

チカホイベント：下水道事業パネル展 報告書



1. はじめに

GKP 北海道は、令和 7 年 8 月 30 日（土）から 8 月 31 日（日）まで、札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）で開催された「札幌市 令和 7 年度 下水道事業パネル展 ～みんな知っている？下水道のこと」において企画協力を実施しました。このイベントは札幌市と北海道地方下水道協会が主催し、9 月 10 日の「下水道の日」にちなみ、普段意識される機会の少ない下水道の役割や重要性について市民の皆さまに知っていただくことを目的としています。

2. 来場者数

開催期間中、会場には 2 日間で合計 2,395 人が来場し、内訳は、8 月 30 日が 1,238 人、8 月 31 日が 1,157 人でした。今回のイベントは、8 月 30 日が 12:00～18:00、8 月 31 日が 9:00～18:00 と、過去の開催と比較して開催時間が短縮されましたが、多くの来場者を集め、大盛況でした。なお、これまでの最多来場者数は令和元年度の 2,874 人でしたが、今回もそれに次ぐ賑わいとなりました。

3. GKP 北海道の企画協力

GKP 北海道は、市民の皆さまに下水道の大切さや魅力を感じ取っていただけるよう、以下のコンテンツを提供しました。

- ・全国のマンホールカード全種類展示
- ・第 2 回 道内マンホールカード総選挙
- ・道内下水道遺産パネル展示
- ・じゅんかん育ち実物展示
- ・下水道のドクターマシン操縦体験
- ・マンホール版画
- ・ステージイベント

これらの企画の中には、長年にわたり来場者から好評を得ている毎年恒例の体験コーナーも実施しました。「マンホール版画コーナー」は、GKP 北海道の企画として令和元年度にスタートし、今年も札幌市の公共マス（汚水マス蓋の金魚、雨水マス蓋のカエル）、そして苫小牧市の公共マス（トマチョップ）といった実物の公共マス蓋を用いて、インクでデザインを紙に写し取る体験で、子どもからお年寄りまで幅広い層に大人気でした。また、「下水道のドクターマシン操縦体験！」は、平成 29 年度から毎年行われている企画であり、普段目にする事のない下水道管の内部状況を調べるロボットを操縦体験で、特に子どもたちに大人気で、下水道の技術に触れる貴重な学びの場となりました。

4. 「第 2 回 道内マンホールカード総選挙」

GKP 北海道が協力した主要な企画の一つとして、「第 2 回 道内マンホールカード総選挙」を開催しました。その結果は以下の通りです。

- ・投票期間: 2025 年 8 月 30 日 12:00 から 8 月 31 日 12:00 まで。
- ・総投票数: 3,501 票。これは「道内マンホールカード総選挙」の史上過去最高の投票数を記録しました (前回 2024 年度の第 1 回は 3,236 票)。
- ・投票者数: 約 1,167 人。
- ・第 1 位: 札幌市 (雪ミク)
- ・第 2 位: 札幌市 (時計台と鮭)
- ・第 3 位: 別海町 (ホルスタイン)、恵庭市 (アルパカ・ジャックオーランタン)
- ・第 4 位: 函館市 (イカ)
- ・第 5 位: 登別市 (鬼と熊)

今回の総選挙では、札幌市 (雪ミク) が「第 1 回 道内マンホールカード総選挙」(2024 年度) に引き続き 2 年連続で 1 位を獲得しました。この連続優勝により、雪ミクのデザインは、道内マンホールカード総選挙の殿堂入りを果たし、その根強い人気を改めて証明しました。

5. ステージイベントと注目の企画

・「こんなにスゴイ“じゅんかん育ち”」トークショー

「こんなにスゴイ “じゅんかん育ち”」では、下水処理の過程で生まれる汚泥が、リンや窒素を豊富に含む「資源の宝」であること、肥料高騰が課題となる現代において、日本の食料安定化に貢献する重要な資源であることを説明しました。微生物の働きや重金属に関する厳しい安全基準についても解説し、古くから日本で行われてきた資源循環の歴史に触れながら、「じゅんかん育ち」という愛称の農作物を通じて、持続可能な社会づくりに貢献する意義を強調しました。このトークショーの最後には、本トークショーを聴講し、アンケートに回答いただいた方に、十勝地方幕別町で採れた「じゅんかん育ちとうもろこし」を無料配布し、大盛況でした。

・「下水道博士になろう！ クリンちゃんと学ぶ水のヒミツ」クイズ大会

今年度から始まった新たな企画「下水道博士になろう！ クリンちゃんと学ぶ水のヒミツ」クイズ大会では、下水道の役割、札幌市の下水道管の長さ、下水処理場の場所、下水道料金の使い道、下水の熱利用、マンホール蓋に関する問題、下水道使用料の比較など、下水道に関するクイズを出題しました。2 択形式で、正解数の多い上位 5 名に「マンホール蓋の実物大スタンプトートバック」を、参加者全員には「公共マス蓋の実物大スタンプトートバック」をプレゼントしました。クイズ大会には、多くの家族連れが熱心に参加し、会場は大いに盛り上がりました。

・「マンホールカードの楽しみ方」トークショー

マンホールカード振興財団の三谷吉文氏が登壇し、全国に 1,189 種類（747 自治体、3 団体）が配布されているマンホールカードの魅力や収集の楽しみ方を紹介しました。

・「実物大??マンホールふたのもようをとってみよう！」

鶴巻工業株式会社の田家佳昌氏が、マンホールの蓋の芸術性に着目し、その模様を版画として転写する体験を実施しました。体験にあたり、全国や海外での事例紹介、版画の手順説明を行いました。この企画は、会場内の「マンホール版画コーナー」（前述）と連動し、今年も多くの人場者がマンホール蓋デザインの魅力を再発見する機会となりました。

・北海道大学落語研究会によるステージ

初日には漫談・落語、2 日目には漫才・落語が披露され、会場は笑いに包まれ、イベントの雰囲気を一層盛り上げました。

これらのステージイベントや展示を通じて、参加者には「北海道限定バージョンのマンホールラバーバッジ」などの GKP 北海道オリジナルのプレゼントも配布しました。

6. 総括

「下水道事業パネル展 2025」は、開催時間を昨年度より短縮しましたが、2,395 人という多くの来場者を集め、大盛況となりました。特に「第 2 回 道内マンホールカード総選挙」では過去最高の投票数を記録し、新企画のクイズ大会も家族連れに大人気となるなど、市民の皆さまが下水道の役割や重要性、そしてその多様な魅力を深く理解する貴重な機会となりました。この活動を通じて、下水道事業に対する理解が深められたものと考えられます。



イベント会場(全景)



マンホールカードの展示 今年もマンホーラーがたくさん来場しました



じゅんかん育ち展示



衝撃弾性波ロボット 子どもから大人まで興味津々



マンホール版画



こんなにスゴイ！ じゅんかん育ち

GKP 北海道（原田哲郎）



マンホールカードの楽しみ方



マンホールカード振興財団（三谷吉文）



実物大??マンホールふたのもようをとってみよう！ 鶴巻工業 株式会社 田家佳昌 氏



下水道博士になろう！ クリンちゃんと学ぶ水のヒミツ



第2回 道内マンホールカード総選挙 結果発表

初日、2日目ともに北海道大学落語研究会による催し物で会場を盛り上げました。



模擬店（もぎてん）



夢見亭さささ（ゆめみてい さささ）



カス亭ラー（かすていらー）



空扉（そらとびら）



みろく屋くろみ（みろくやくろみ）

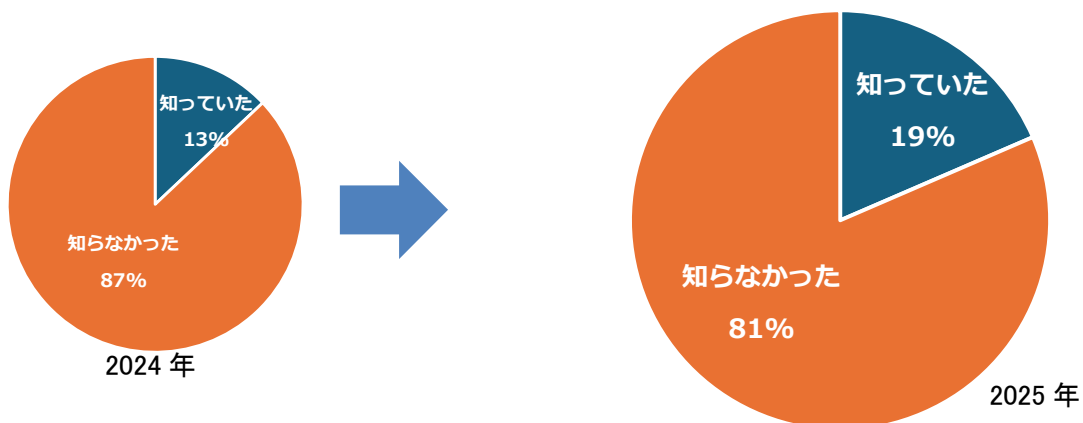


四六亭伊織（しろくてい いおり）

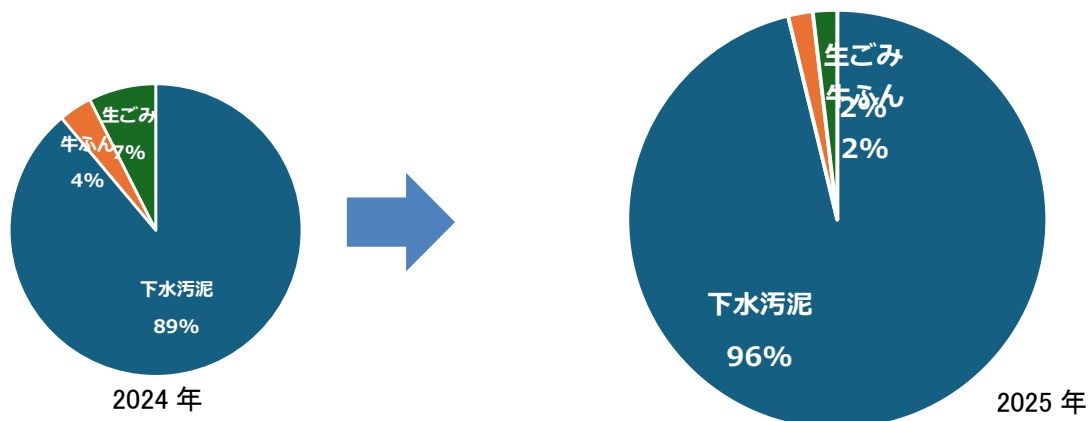


ステージイベント こんなにスゴイ！じゅんかん育ち アンケート結果

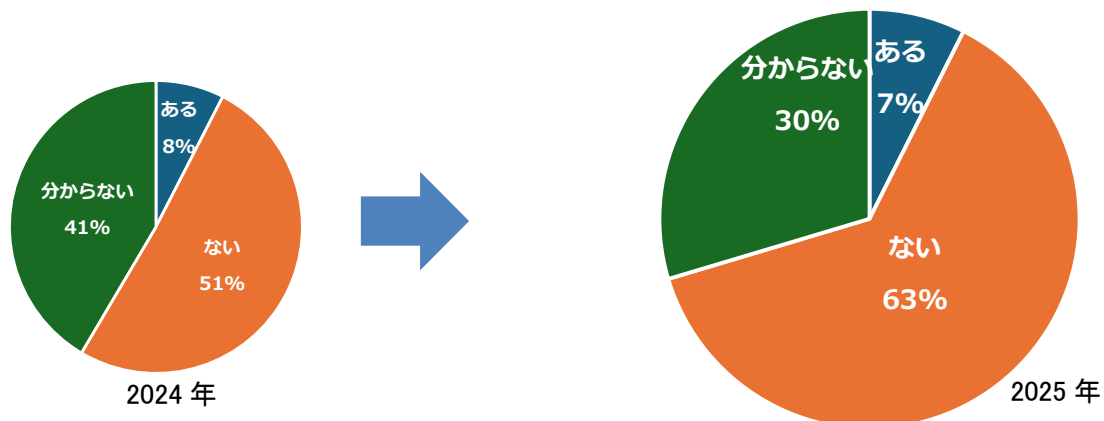
Q1 あなたは「じゅんかん育ち」を知っていましたか



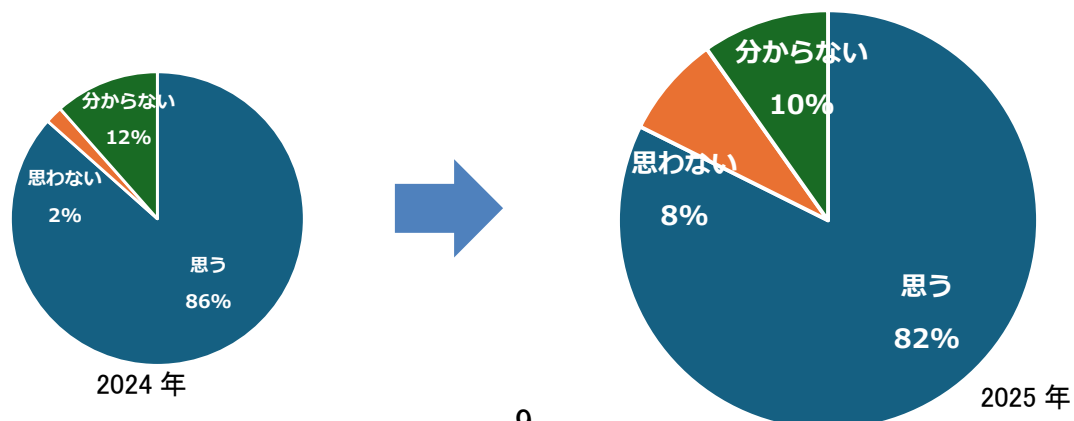
Q2 「じゅんかん育ち」の肥料の原料はどれでしょうか



Q3 「じゅんかん育ち」食材を食べたことがありますか



Q4 「じゅんかん育ち」今後も広めるべきと思いますか



自由意見

今後も推進すればきっといい効果があると思います。
もっと広がるといいですね
初めて知りました！興味深かったです。
すばらしい取り組みだと思います。
じゅんかん育ちでできた野菜を食べてみたいと思った。
とても良いとりくみだと思いました
食材をぜひ食べてみたいです
とてもいいことだと思います！
無駄にならずに役立っていると知った。
僕もじゅんかん育ちにしたい
知らなかったことが分かり参考になりました。じゅんかん育ち、初めての言葉、良かったです。
めちゃうちゃおいしいよ！というのを広めるとよい。ミクちゃんがPRしてもよさそう食べてみたい！！
じゅんかん育ちの商品がどこで売っているかわからない。どこかのスーパーと共同してみてもいい？
全く知らなかった
このような農業があることをはじめて知れてよかったです。
おいしかった
とうもろこしがおいしかったです
知らないことなので興味がわきました。
じゅんかん育ちがふるさと納税であることを初めて知りました。
今、初めて知り勉強になりました。GKP勉強になりました。
いろんなことをやってるんですね！
多くの地域に広がりますように。
下水を肥料にして育てていることに驚いた
びっくりしました
これからも、どんどん広まってほしい
全国に広まると良いと思います
豊かな未来のため、がんばってください

以上

